

代表挨拶



今は自分や周りにドライなあの子も、きっと何かの「きっかけ」で変わる。グレイとかウザイとか、そういう表現で自己表現しているあの子も、それ以外の表現で複雑で繊細な自分の感情を表現できていないだけ…。

「きっかけ」不足な社会に生きる10代に、「私、がんばってみようかな!」と思えるような「きっかけ」をつくりたい。

そんな想いを抱いて、私たちは走り続けてきました。

日本には330万人以上の高校生がいます。カタリバの活動を、一人でも多くの高校生に届けることが、日本の未来を動かす原動力になると信じているから、私たちは今日も、彼らに向き合い、カタリかけています。

今村 久美 (いまむら くみ)

岐阜県高山市生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業。大学卒業と同時にNPO法人の設立を志し、高校の授業における講演活動を行いながらも、自身の生活のためにフリーター生活を始める。2006年、特定非営利活動法人NPOカタリバを設立、代表理事に就任。2008年「日経ウーマンオブザイヤー」受賞。2009年内閣府「チャレンジ賞」受賞。

📌 サポーターメッセージ 📌

家庭が個人的なもの、学校が行政的なものならその二つが作れるもの、繋がるのが地域社会。

地域、家庭、学校というバラバラな要素で出来ているのではないわけです。家庭や学校で地域を構成している。いろんな関係ができていく。カタリバは社会の代表として高校生に会いに行き、ざっくばらんに語り合う活動であり、まさに地域社会の再構成。その活動はこれからの社会を明るくしていくと私は信じています。



寺脇研氏
京都造形芸術大学教授
カタリバ大学学長

社会づくりに参加する大人を増やすために大人になる直前の高校生を動機づける機会を、より広くたくさんの方所で作り続ける必要があります。



すべての日本人が自立した責任ある大人になれる社会をめざしてぜひ、カタリバの活動をご支援ください。

カタリバサポーター

【入会金】
2,000円
(会員入会初回のみ)

【会費(月額)】
1口 1,000円より
(一年ごとの更新)

寄付

下記口座への寄付も受け付けております。いただいたご寄付は、高校生のキャリア教育のために、大切にさせていただきます。

ぜひ、お電話かメールでご連絡ください。
(カタリバ説明会も実施中、詳しくはWEBへ)

電話：03-6316-6194

メール：hello@katariba.net

WEB：http://www.katariba.net/

カタリバ

検索

** 寄付 お振込先 **

銀行名：三菱東京UFJ銀行

支店名：中野支店

口座番号：(普通) 1073669

口座名：特定非営利活動法人
NPOカタリバ 理事 今村久美

未来への投資を
よろしく
願います。

あなたを育てた社会、
今度は、あなたが
育ててください。

平成22年1月27日
第1回「新しい公共」円卓会議
寺脇研委員提出資料

キッカケうまれる、ナナメの関係



KATARIBA



「高校生キャリア学習事業」
へのご支援のお願い

特定非営利活動法人 NPOカタリバ
〒164-0011 東京都中野区中央3-30-3
Tell 03-6316-6194

お問い合わせ窓口：hello@katariba.net
公式サイト：http://www.katariba.net/

カタリバが提供する「ナナメの関係」



出会いが、
人を成長させる。

カタリバはそう信じ、人生の先輩との出会いを通じて、高校生に自分の将来を考える「きっかけ」を提供する活動で、高校生のキャリア支援に取り組んでいます。

学力低下、モラルハザード、いじめ、引き籠もりや、フリーターの増加など、現代の子ども達を取り巻く環境には問題が山積しています。

そんな中、あらためて社会全体として取り組まなければいけないのは、一人ひとりの子どもたちと向き合い、ゆっくりじっくりとコミュニケーションをすることです。

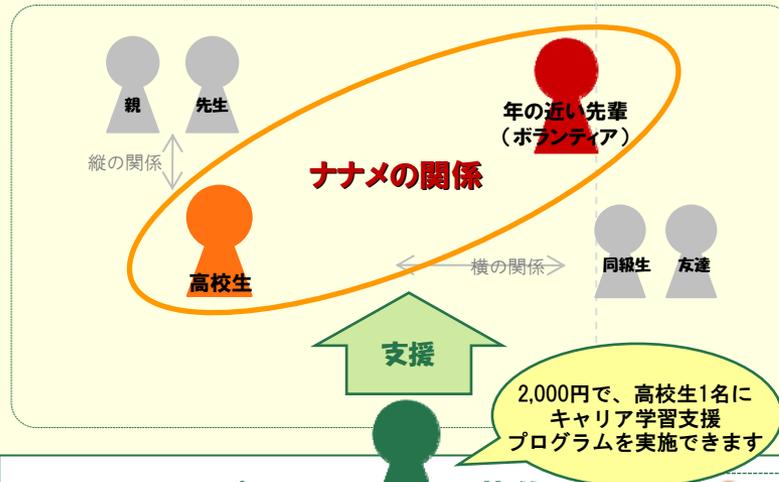
励ましてもらい、叱ってもらい、褒めてもらい、夢をじっくり聞いてもらう・・・そんな時間が、子どもたちが自分を見つめ直す「きっかけ」になるのです。

大人になる直前の約98%の子ども達が高校に入学する今、日本中の高校生が、今よりも少し自分に自信を持ち、今よりも少し意思ある日常生活を送ることができ、今よりも少し意志ある進路選びをするようになることが、結果として、“素敵な大人”が増えることに繋がるのではないのでしょうか。

ナナメの関係である「人生の先輩」との出会いの場を、カタリバはこれからも提供しています。

高校生が元気になれば、
日本はもっともっと、
元気になる。

年齢が近く、先入観・利害関係の少ない関係であるお兄さん、お姉さんとの「ナナメの関係」の出会いを高校などの授業に組み込むことで、より多くの高校生に、自分自身と向き合う機会を提供しています。



カタリバ経験者の人数推移

2010年1月現在



将来的に、日本全国の高校生に「カタリバ」を体験してもらえよう、私たちは活動しています。

カタリバサポーター 募集

NPOカタリバの活動を、気持ちとお金で支えてくださる「サポーター」を募集しています。カタリバのミッションに共感していただいた方、若者たちのパワーを支えたい、日本の社会のために高校生を応援したい方。ぜひカタリバサポーターとして、カタリバを応援してください。

サポーター特典

- ・年次報告書のご送付
- ・活動報告会、事業報告会へのご参加(3カ月に1回程度)
- ・カタリバ大学(カタリバ主催セミナー)の受講料割引
- ・その他、各種イベントへの優先ご案内

「実は、今のじぶん好きじゃない。前はもっと頑張ってた。でも、最近あまり頑張っていない。今日いろんな先輩の話を聞いて、やばいと思った。だから、まずは学校の授業を頑張ってみようと思う。「1日1回、授業の後先生に質問をする」という約束をした。」 (高校2年生 女子)

「親にも先生にもともだちにも言えないことがある。今日、それを聞いてもらって、すごく楽になった。親にも話したらわかってもらえる気がしてきた。」 (高校2年生 男子)





2050年をデザインする カタリバ大学

「今と未来の教育！労働！地域！政治！」

成熟した現代社会をきちんと理解し、50年・100年単位の未来を根拠を持ってイメージし、あるべき社会をデザインしていく確かな技術をわたしたちが今、選び取っていくために……

アラハタ世代と呼ばれる学生たちと、アラサー世代と呼ばれる若い大人たちを対象にして、ここに「カタリバ大学」を開講します。

カタリバ大学 学長紹介

昭和27（1952）年7月13日福岡県生まれ。57歳。昭和50（1975）年3月東京大学法学部卒業。同年4月文部省（当時）入省。政策課長、大臣官房 審議官（生涯学習政策担当）、文化庁文化部長などを歴任。平成18（2006）年11月退官。現在京都造形芸術大学教授、映画評論家、NPO教育支援協会チーフ・コーディネーター。高校時代から「キネマ旬報」誌に映画評を投稿、若い読者の投稿欄の常連であった。75年からはさまざまな映画雑誌に求められ執筆するようになり、現在もさまざまなメディアに映画評を書く。著書に『格差時代を生きぬく教育』（ユビキタ・スタジオ）、『それでも、ゆとり教育は間違っていない』（扶桑社）、『さらばゆとり教育』（光文社）『官僚批判』（講談社）、『憲法ってこういうものだったのか！』（姜尚中と共著 ユビキタ・スタジオ）、『2050年に向けて生き抜く力』（教育評論社）、『百マス計算でバカになる』（光文社）など。

カタリバ大学学長



寺脇研

コーディネーター



今村久美
NPOカタリバ代表理事

近日開催の講義

- 1/31(日) 第12講：社会を動かす、あたらしい教育現場
代田昭久氏（杉並区立和田中学校校長/よのなか科NEXT）
大河内保雪氏（東京都教育委員会/元東京都立松原高等学校副校長）
樫原洋平氏（株式会社リンクアンドモチベーション）
- 2/13(土) 第13講：ソーシャルベンチャーは新しい公共になりうるか
駒崎弘樹氏（フローレンス代表理事）

- 時間：13:30-16:30（開場 13:00）
- 会場：ライセンスアカデミー本社 会議室

詳しくは

カタリバ大学

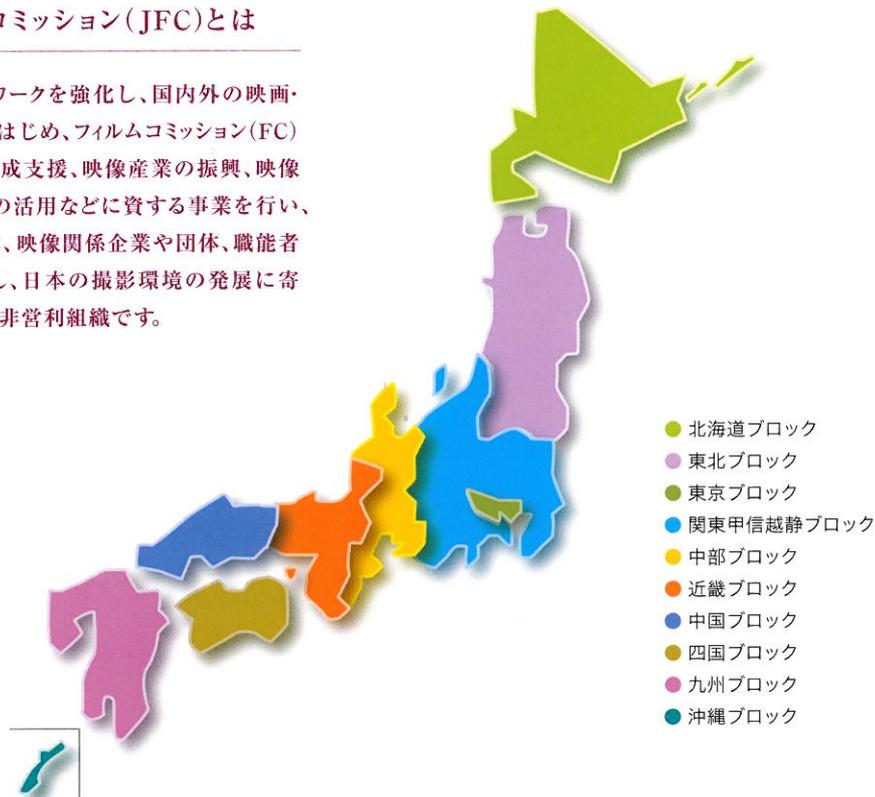
検索

カタリバ大学 講義テーマ及び講師一覧

	テーマ	ゲスト
プレイベント	格差時代の夜明け前 ～若者漂流時代をどう生きる？	廣岡守穂氏（中央大学法学部教授） 川戸恵子氏（TBSシニアコメンテーター） 鈴木恒夫氏（元文部科学大臣） 福島みずほ氏（参議院議員社民党党首） 山本繁氏（NPO法人NEWVERY代表理事） 岩淵弘樹氏（映画監督） + 以下*のゲストの方々
第0講	カタリバ大学ガイダンス	寺脇研学長
第1講	2050年 教育のあり方	鈴木寛氏*（参議院議員） 吉田博彦氏*（教育支援協会代表理事）
第2講	2050年の人権・メディア論	吉田俊実氏*（東京工科大学教授） 清水孝幸氏*（東京新聞記者） 早野透氏*（朝日新聞コラムニスト）
第3講	2050年の政治	岡田克也氏（民主党幹事長） 早野透氏*（朝日新聞コラムニスト） 与良正男氏*（毎日新聞社論説委員）
第4講	2050年の労働	玄田有史氏（東京大学教授）
第5講	映画は世界を変えるのか	寺脇研学長
第6講	地方分権	露木順一氏*（開成町町長）
第7講	選挙後の、政治	鈴木寛氏*（参議院議員） 与良正男氏*（毎日新聞社論説委員）
第8講	近現代史に学ぶ選挙の背景	さいとう健氏（衆議院議員） サーラスヴェン氏（上智大学准教授）
第9講	日本と世界	宮台真司氏*（首都大学東京教授）
第10講	政権交代後の政治	松井孝治氏（内閣官房副長官） 早野透氏*（朝日新聞コラムニスト）
第11講	2009年の教育/労働/地域/政治	与良正男氏*（毎日新聞社論説委員） 山田厚史氏*（朝日新聞社シニアライター） 吉田俊実氏*（東京工科大学教授） 山口二郎氏*（北海道大学法学部教授）
第12講	社会を動かす、 あたらしい教育現場	代田昭久氏（杉並区立和田中学校校長） 大河内保雪氏（都教委/元都立高校副校長） 樫原洋平氏 （株式会社リンクアンドモチベーション）
第13講	ソーシャルベンチャーは 新しい公共になりうるか	駒崎弘樹氏（フローレンス代表理事）

ジャパン・フィルムコミッション(JFC)とは

全国の撮影支援ネットワークを強化し、国内外の映画・映像作品の制作支援をはじめ、フィルムコミッション(FC)や映像関係者の人材育成支援、映像産業の振興、映像文化の普及、地域資源の活用などに資する事業を行い、国や地方公共団体、FC、映像関係企業や団体、職能者組織などと協力・連携し、日本の撮影環境の発展に寄与することを目的とする非営利組織です。



JFCの主な事業

■ フィルムコミッション業務

国内外の製作者に対して全国のロケ地やFCに関する情報提供を無償で行い、ワンストップ・サービスを提供

■ プロモーション活動

- 国際マーケットへの出展(Locations Trade Show、BIFCOM、TIFFCOM、香港FILMART等)
- 海外ネットワークとの連携(AFCI、AFCNet等)

■ ブロック化推進

- 地域ブロックごとにネットワークを組んで連携を図ることで、全国ロケハンの効率化を図り、撮影支援を強化
- 地域ブロックにおける地域の特性を生かした活動を展開

■ JFC 認定研修

- FCの基本業務の高レベルでの標準化およびその継続、撮影における制作者とFCの有機的な連携強化を目的とした制度の設置
- JFC資格認定制度の導入(JFC認定FCおよびJFCパートナーズ制度の導入)

FCの3要件

1 非営利公的機関であること

自治体や外郭団体、NPOや商工会であっても無償で制作支援を行います。撮影隊と金銭の授受を行わない関係を保つため資金援助、タイアップ協力はしていません。

2 撮影のためのワンストップサービスを提供していること

撮影に関する一元的な窓口を担い、ロケーション情報の提供や、公的施設等を利用する際の、許認可調整を行います。

3 作品内容を問わないこと

全ての依頼作品を支援し、撮影の内容や規模によって優遇・拒否することはありません。それは作品の内容をFCが評価することになってしまいます。優遇されることを狙ったり拒否されることを恐れたりして作品内容が自主規制されるような結果になれば、映画にとって最も大切な「表現の自由」を制約することになりかねません。

ただし、ロケ地の使用については管理者によって断られることがあります。